

紙形民俗文化財

1 名 称 登前綱瀬神楽

2 実施場所 大分県中津市大字蛸瀬町 八坂神社
実施月日 平成九年十月二十一日

3 実施者及び関係者の、氏名、住所、職業

※ H9年12月 県民文化センター
10月21日

4 使用する器具の名称、員数、形状

(1) 使用方法の概要

名 称	人	ヌ	毛	メ	面	ツ	タ	タ	末	鬼	祝	鈴	三	角	袖	米	餅	花	弓	矢	ヨ
神楽名	員	サ	子	頭	ヌ	衣	ケ	キ	広	杖	舞	詞	方	八	無				火		ウ
大鼓深身鼓	3	0	0			0	0	0	0				0								
一番神楽	4	0	0	0		0	0	0													
手房 神楽	1	0	0			0	0	0							0	0					
花 神楽	4	0	0			0	0	0							0						
二人 手房	2	0	0			0	0	0							0	0					
貳仙 神楽	2		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
一人 鏡	1		0			0	0	0	0	0	0										
地割 神楽	6		0	0	0		0	0	0	0	0	0			0						
神宜 神楽	5		0	0	0		0	0			0	0			0						
弓 正号	4		0			0	0				0				0						
乱 貳仙	4		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
山人 舞い	1	0		0			0	0	0	0							0	0			
三人 舞い	3		0	0	0		0	0			0					0	0	0			
綱 貳仙	5		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0			
二人 鏡	2		0			0	0	0	0												
四人 鏡	4		0			0	0	0		0					0						
蛇 退治	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
神 迎	6		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0					
湯庭 滑股	1	0				0	0					0	0	0							
神 随	3	0	0			0	0	0	0						0						
湯の 貳仙	2		0	0	0	0		0	0	0	0	0			0						
我 量 者	1	0																			
祝 詞	1	0			0						0	0									
湯 棒	2	0			0	0						0			0						
湯 行 事	4	0	0			0	0	0	0	0					0						
思兼 の命	1	0	0		0	0	0	0													
四方 鬼	4		0	0	0	0			0	0					0						
鬼神 退治	1	0		0	0	0	0	0	0												
太玉 の命	1	0		0	0	0	0	0			0	0			0						
玉祖 の命	1	0		0	0	0	0	0							0	0					
石凝留の命	1	0		0	0	0	0	0							0	0					
長白羽の命	1		0	0	0	0	0												0	0	
天細女の命	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0
手力雄の命	1		0		0	0	0	0	0	0					0						

(2) 神楽道具

名 称	数	名 称	数
鳥 帽子	15	メイギス	7組
毛 頭	14	角 八	10
面	12	袖 無	12
狩 衣	12	ヨウラク	1
タツケ	30	鈴	1
末 広	10	太 鼓	1
引 布	14	チャンカラ	2
袴	25	笛	5
タスキ	20	湯立神楽	一式
鍬	4		
弓 矢	1組		
短 刀	1		
藁 草履	20		

(3) 神名と面の色

神 名	色
猿田彦の命	赤
東方 鬼神	青
南方 鬼神	赤
西方 鬼神	白
北方 鬼神	黒
思兼 の命	肌
細女 の命	白
石凝姥の命	黒
太玉 の命	肌
白羽 の命	肌
手力男の命	茶
足名雄の命	肌

5 行事の概要

三 十 三 番 神 楽

- 大祓禊身祓 湯庭及び神楽社中の清祓
- 一番神楽 大神の御前にて始より終りまで執行する神楽
- 手房神楽 笹二本、十二干支を称えて舞う（通称笹神楽）
- 花神楽 皇産霊神よりを花のごとく打ち散らして村の産土神に渡す
- 二人手房 弊と扇の舞い、十二の掛歌を称えて五穀豊穡を祈願する
- 駈仙神楽 大神の命を受けて御先をつとめる猿田彦の神、宇津目の神の舞い
- 一人 劔 弊、扇、櫛、大刀二本で舞う
- 地割神楽 風、火、金、水、土、五柱の神に其の土地を治める神楽

- 神宜神楽 弊、鈴を持って舞う大神の命をつかさどる
- 弓正号 天の五行の神に無病息災を祈願する
- 乱駈仙 常に駈仙を合併して舞う、鬼二人弊方二人
- 山人舞い おぼんに米を入れ左右に持って舞う、五穀豊穡を感謝する舞い（通称米神楽）
- 三人舞い 山、海、田の神が大神に捧げるまい（通称餅神楽）
- 綱駈仙 蛇を鬼神（前段舞、後段舞）が退治する神楽
- 二人劔 五つの神に折りつつ邪気を切り払う、櫛、太刀を持ち二人で舞う妙技
- 四人劔 五つの神に折りつつ邪気を切り払う、櫛、太刀を持ち四人で舞う妙技
- 蛇退治 須佐之の命が八岐の大蛇を退治するまい
- 神迎 伊邪那岐、伊邪那美の二柱の神を猿田彦が迎えるまい
湯立神楽は清潔で厳しい試験を要し一週間前より女人の煮物を食せず、当日は早朝海に行き海水にて身を清め、身につけた物一切着用せず新しいものを着用する、まず神社境内に四間四方の竹矢来を組み湯庭を作る、丑寅の方位に位置するように神棚を置き、中央で薪を焚く、赤土、荒縄で作られた三脚の上には湯釜をのせ、釜の中には五曜の御幣を入れる、二十尺余りの湯釜真木より三本の引綱を引き、その頂点に御幣を立てる。
仮殿には五畿内、五ヶ国、東海道十五ヶ国、北陸道七ヶ国、山陰道八ヶ国、山陽道八ヶ国、南海道六ヶ国、西海道九ヶ国の鎮守止堅す神々を祈る、神殿には、海、山、野、の品々、塩をお供えし、湯庭の水の初穂を捧げて湯立神楽を執行する。
- 湯庭の清祓い
宅人装束を着用して塩と祓い弊を三方に乗せて、仮殿前の右に置き磐座して清祓い一度、大祓三度終わって又湯釜に沿っても斯くの如く執行し、又、清祓を終えて打火をして薪につけて燃やすべし、燃え終わって神楽用意
- 神隨 三人の物の皆装束を着用して祓弊を持って湯庭に出て神殿に一礼一巡、湯釜を中にして三方磐座する、拍手一礼して神楽執行この時十二支の名を称える

祈事も誠しあらば天地の神の恵みぞなぞなかるむ、(も前にも神の坐ますを、悪れ悪恐れて唯慎め哉。

寅は手にゆらゆらと八坂の眞玉神より神に集まってかしこし、
立つ時も居る時も唯仰ぎなばたてし山坂の道、御柱にしめ縄を掛け心を祈り
なばたと受け引かん神はあらじな……と唱えながら湯釜の回りをまわりおえ
て一同東方に向い『東方句々奴の大神りょいのみたまを幸い給え』と称え
ながら太刀を抜いて切り払いお辞儀する、

南方 加久根の大神りょいのみたまを幸い給え
西方 金山彦の大神りょいのみたまを幸い給え
北方 早秋津彦の大神りょいのみたまを幸い給え
中央 埴山姫の大神りょいのみたまを幸い給え

舞い終わり太刀を前に置き駄弊にて三方より『水』の字を地面に書いて湯釜
の周りを廻り終え着座拍手一礼して退殿する。

2 0 湯の駆仙

鬼と弊方打ち合わせまでして湯庭を一巡し、鬼一人湯鉢の支え木まで上がり
棒杭で止まり杖にて湯釜の中の湯をかきまぜ、邪気を払いて飛び降り四方を
拂ひ神殿に向かって一礼して退殿。この時、別の赤鬼が湯鉢真木に登りて御
弊を切りはなち綱をつたっておりる

2 1 裁量者（火加減を見る人）

湯庭の火を見分けして、火が治まらば生木の棒にて其の火を三方に分け燃え
かすは取り除き、また湯釜の前にふみつぎを用意して退去す、この時、裁量
者は三人でも良い

2 2 祝詞

烏帽子と打掛けを着用して祝詞を三方に乗せて湯庭に出て神初めの棚上に置き
着座、一礼清祓をして祝詞を読み上げる、また湯釜に向かって火魂の神に向
かい『駄え給え鎖め給え』と称えて退去す

2 3 湯桶

前の装束を着用して湯釜の前のふみつぎに上り、造化の神、火魂の神、八百
万の神、其の所八坂神社の神の御名を称え奉り棚にて、幸徳奇徳給え、幸い
と給えと湯をグルグル棚にてかきまぜて拍手一礼して湯の中の御子を引き掲
げて三方にのせ神初めに治め置くべし、この時、村の役員に弓矢を放つて五穀
豊稔を祈る

2 4 湯行事

三名の人共に装束を着用、湯行事の者白の角八を着用、袴着用、湯庭に出て
一方に一人宛、三方より釜の火に添い各つくまて、拍手一礼各々清祓して
『火魂の神の御心をしずめ奉る』を口に唱え位置を変え三度唱える、袴着用
の者ご弊を持って湯行事清祓、左右左と清祓する三名が真っ先に火渡する。
同時に、竹矢来を切り開く。

以上、鎮火行事の後、参拝者は火中を素足にて渡り無病息災を祈願する。資料参考

岩戸神楽

おもいゆめのみこと

2 5 思兼の命 岩戸の前で神々の舞いを司る

し 四うおに

2 6 四方鬼 東方、南方、西方、北方、の鬼

お じんたいじ

2 7 鬼神退治 刀をさばき悪鬼を切り刀を奉納する

よとだまのみこと

2 8 太玉の命 香具山の眞碑を持ち神楽を奉ず

たまごやのみこと

2 9 玉祖の命 玉を持って、鈴と扇にて神楽を奉ず

いしこうどろのみこと

3 0 石凝留の命 鏡を持ち岩戸前にて捧げ置き奉ず

3 1 長白羽の命 弓、矢の舞いを岩戸前にて奉ず

あめのおうすのみこと

3 2 天細女の命 右手に鈴、左手に扇を持ち岩戸前で面白く舞う

たぢかもくおのみこと

3 3 手力雄の命 大力の神で天の岩戸を開く

6 沿革又は、民俗史との関係

豊前岩戸神楽は、先祖古来より伝承された神楽の中では、その真髄とも云うべきものであります。

そもそも、神仏習合の時代、求菩堤山の山伏によって伝えられた、五穀豊稔の祈願である「松江」と先祖供養の外護供とが混合したものであり、これらの手法は山伏の呪術と云う不思議な力によって盛り上がりを見せており、一名火伏せの術とも云われ修験道地域の山嶺から里へと山伏によって伝えられた。

求菩堤山とは地理的にも近隣であった、福岡県豊前市吉富町「八幡古表神社」の先祖、熊谷房重宮司は「松江」の指導者であり、また、神楽の信奉者でもあり近郷の神社にこれらの手法を指導した。

江戸時代末期、「八幡古表神社」の傘下にあった蜷瀬「八坂神社」の神楽方、横松房太郎他数名に伝授された。

尚、蜷瀬神楽発祥の由来は更に古くその神楽碑「奉事神明」が奉じられています。また、先輩方の神楽活動は国内はもとより国外（旧満州：韓国）にもおよびます。

7 その他の参考事項

(1) 保存団体

豊前岩戸神楽蛸瀬神盛会として、代表者 江湖寿 のもとに保存団体として保存されている。

(2) 後継者の有無

「有り」 現在会員18名は熟年から青年までの入員構成を固り、後継者の育成にあたっている、その根拠となる蛸瀬子供神楽は加来武会員が師匠となり地元出身の小学生4～6年生を軸に現在10名の養成を行っています。

(3) 後援会

大字蛸瀬町の自治委員を先頭に450軒の町民の協力により昭和51年1月豊前岩戸神楽の後援会が結成された。

(4) その他、将来の見通し

県に於いては、県民の活性化を計るため、一村一品の促進、新たな活力となる小グループによるミーティングから町ぐるみ、市単位でのスポーツ、綱引き等の振興、又無形民俗文化財の促進を実施している状況下、130有余年、諸先輩方の築いて来た伝統有る、豊前岩戸神楽蛸瀬神盛会を、是非県指定無形文化財として各種イベントに参加、協力出来るようお願いしたい。

何故ならば、昔ながらの舞い方、心浮かせるお囃子、何と云っても舞から、かもし出される土くささが、市民の心を引き付け感動を与えている、祭りの時期には竜王宮中津神社、鷹神社、島田神社などの主だった神社を始め近郊の15神社に神楽奉納を行っており、皆様の支援による豊前岩戸神楽蛸瀬神盛会の、将来は安定している。

(5) 感謝状、受賞の有無

昭和11年～14年	4回	鞍山神社奉納	感謝状受賞
昭和49年		伊勢神宮奉納	感謝状受賞
昭和57年		韓国鎮州市100年記念祭	感謝状受賞
昭和33～毎年		赤間神宮先帝祭奉納	感謝状受賞
昭和61：62年	2回	高千穂神楽宿との交流	

(6) 添付資料

豊前蛸瀬神楽 文献(写) 資料は右読みです、後方よりお読みください

豊前岩戸神楽 蛸瀬神盛会名簿

追 加 資 料

(1) 使用方法の概要

名	人配	島毛	ヨシモト	角田	袖タ	袴	ス	弓矢	笹	柳	末	鈴	鬼	米	盆	花	三	塩	ワ	杖
		子	頭	ケ	衣	ハ	無	ケ	他	サ	幣	広	キ	杖				火	方	ジ
神迎	1	もんじん	O	O	O	O	O						O						O	
	1	こしじん	O	O	O	O	O						O	O					O	
	1	へんじん	O		O	O	O				O								O	
	1	なびなま	O		O	O	O	O							O				O	
	2	かまて	O		O		O	O							O				O	
湯庭清蔵	1	O		O	O					O								O		
神随	3	O		O	O	O	O	O			O	O	O	O						
湯の駆仙	1	きよさ	O	O	O	O	O					O	O							
	1	うすみ	O		O	O	O	O				O	O							
裁量者	3	O		O	O	O	O				O	O	O						O	
祝詞	1	O		O	O	O	O			O	O							O		
湯棒	3	O		O	O	O	O			O	O									
湯行事	3	O		O	O	O	O				O	O	O						O	
思兼の命	1	O	O	O	O	O	O	O												
四方鬼	4		O	O	O	O	O		O											
鬼神退治	1	O		O	O	O	O						O	O						
太玉の命	1	O		O	O	O	O		O	O	O	O								
玉祖の命	1	O		O	O	O	O	O	O	O	O									
石碓留の命	1	O		O	O	O	O	O	O	O	O									
長白羽の命	1		O	O	O	O	O		O	O										
天鈿女の命	1		O	O	O	O	O					O	O							
手力雄の命	1		O	O	O	O	O				O	O	O							

2 神 楽 の 言 儀

1 大鼓深身鼓

2 一番 神楽

3 手房 神楽

(通称世神楽)

御手房を手に取り給え拜むには、四方の神を花とこそよむ
御手房の出で入る道に綾をのべん、錦を述べてとくとせん――

4 花 神 楽

花ならんむ君に心はうつらえて、たきものならむよやこがらす

折事も織しあらば天坂の神の思みぞなぞなかるむ、後にも前にも神の
坐ますを、悪れ悪恐れて唯慎め哉、取らば手にゆらゆらと八坂の眞玉神
より神に集まってかしこし

これより東方句久奴の神

これより南方南方加久槌の神

これより西方金山彦の神

これより北方早秋津彦の神

立つ時も居る時も唯仰ぎなばたてし山坂の道、御柱にしめ縄を掛け心を
折りなばなと受け引かん神はあらじな……

これより東方を拜み奉れば、木のえ木の方が方なり、此の方に神まし
ます御名おば東方句久奴の神と申し上げ奉る

これより南方を拜み奉れば、木のえ木の方が方なり、此の方に神まし
ます御名おば南方加久槌の神と申し上げ奉る

これより西方を拜み奉れば、木のえ木の方が方なり、此の方に神まし
ます御名おば西方金山彦の神と申し上げ奉る

これより北方を拜み奉れば、木のえ木の方が方なり、此の方に神まし
ます御名おば北方早秋津彦の神と申し上げ奉る

これより土方を拜み奉れば、木のえ木の方が方なり、此の方に神まし
ます御名おば中央壇山姫の神と申し上げ奉る

5 二人 手房

6 駈仙 神楽

〇〇〇

汝、御名は如何なる神にましますや

吾、国津神の名は猿田彦の大神なり、使い参り向として候也

7 一人 劔

8 地割 神楽

9 神宜 神楽

〇〇〇

地早降る五つの神の御位を、わけて治める命あらめや、そもそも天神
七代伊邪那岐、伊邪那美の二柱、天の浮橋の上に立たしてのたまわく
底津下ににあに国なからにやとて、天のぬほこをもつて青海原をかきさ
ぐり見てあれば、その鈴の先より滴る潮凝り固まりて一つの島となり
たもう、これをなずけてオノコロ島と云う、彼の二神此の島に天降り
てみとのまくあい有り島のやそしま、とつ国々をも造らしめ賜い、又

風の神、火の神、金の神、水の神、土の神をも生みたまいて五行その
徳をそなえよとひとまに取りて首に掛け天岩戸を離れ見て有らば、そ
う上そう国のあいだめを正しからず、如何にや王子達よくよくきこし
めし候らえ、それがしこれにきたること私の儀にあらず神勅を退治来
るほどに五行神宜の赴きを聞しめし候らえ。

いくるみにしなどの風の地早ずば、つかのまたにも命あらめや、いか
にや東方句久奴の神、神宜の趣を聞しめし候

〇〇〇

風徳を司り東方に位するともいよいよあいだめを正しくし、国土を
守るべし神宜の被り有り、全くもつて疑うべからず候

〇〇〇

有りよにたたらぬものをほむすびの神の思みを受けずや有らず、い
かにや南方加久槌の神、神宜の趣を聞しめし候

〇〇〇

火徳を司り南方に位するともいよいよあいだめを正しくし、国土を
守るべし神宜の被り有り、全くもつて疑うべからず候

〇〇〇

金の神二柱人も人も見を鼓ね開まりてどなりませにけり、いかにや西
方金山彦の神、神宜の趣を聞しめし候

〇〇〇

金徳を司り西方に位するともいよいよあいだめを正しくし、国土を
守るべし神宜の被り有り、全くもつて疑うべからず候

〇〇〇

水の神ちわえまさずばものみなの方に顔の如何にあらめや、いかに
や北方早秋津彦の神、神宜の趣を聞しめし候

〇〇〇

水徳を司り北方に位するともいよいよあいだめを正しくし、国土を
守るべし神宜の被り有り、全くもつて疑うべからず候

〇〇〇

世の中にたたらあぬものを事々に地早えますなりいかにや中央壇山姫
の神、神宜の趣を聞しめし候

〇〇〇

土徳を司り中央方に位するともいよいよあいだめを正しくし、国土
を守るべし神宜の被り有り、全くもつて疑うべからず候

〇〇〇

立ちかまし木の葉の下のさざれみず、なりを静めて言の葉を聞け、い
かにや中央オトゴロウの王子も兄たちと共に修行取得を偲え国土と共
に久しく国土をおん守り候え

〇〇〇

吹けば行く吹かねば行かぬ浮雲の身こそやすけれ、まずまずは神宜
のおんちよくゆ、高天が原におん後を慕いまつらん。

10 弓 正 号

11 乱 駈 仙

12 山 人 舞

(通称米神楽)

13 三 人 舞

(通称餅神楽)

抑、この御神楽と申し奉るはその神、天の岩戸の御前にて雨のご屋根
の命、太玉の命、鈿女の命、天の香具山の真櫛を根こしにして神楽を
奏したまえば大神かんろましまして大いなるべし、又、ここに揃ふる
だけの櫛葉をもって宇賀の御たまと大山ずみの神、海原の神と共に計

14 網 駈 仙
15 二 人 劍
16 四 人 劍
17 蛇 退 治

りて山が草木国土豊かに舞を治めば(下じ候)

来て見ればここは出雲の国なるぞ如何なる神か尋ねみん
命たちは如何なる神にましますや
我が名は手邦槌と申すなり
我が名は足邦槌と申すなり
中なる姫は櫛いなだ姫ともうすなり
して命たちは如何にして嘆き悲しむや
我が泣くうえはこの山田の奥にに蛇ありて年毎に姫をとられ又残りの
姫をとられんとして嘆き悲しむなり
しからばその姫を我に与えなば蛇を切り姫の命を助けまつらん
姫の命が助からばただいま大神擡げ待つらん
しからば我に従い来るべし

たいへん険阻な山でございますな—
ほんとに険阻な山でございますな—
ところで命の名は如何なる神にましますや
我が名は酒の神と申します
して命の名は如何なる神にましますや
我が名は金かきの神と申します
このお酒のゆわれを申し上げます
承りましょう

天照大神の御弟に須佐のうの命とゆう大変ご立派なお神様がおり、諸
国をあちらこちらとご巡業になり、たどり着いたのは出雲の国は火の
川上の辺りであります、時は五月雨時で大変蒸し暑い日でお神様は喉
がお乾きになりどこぞ水は無いものかと探した所、幸いにささやかな
小川があり、水を一杯おわがりになろうとしたところ、不思議なこと
にお箸が一膳流れてきたので御座います

ほんとに、不思議なこっちゃん—

此れは何でもこの川上にご人家があるにそおいない、とお箸を遣し
るべに段々だんだんとお上りになったので御座います、果たせるかな、
表に千丁裏に千丁と云う大変なお百姓さんがおり、手摩槌、足摩槌、
中に櫛いなだ姫をおき、蛇のために年毎に姫をとられ、又、ただ一人
の姫を差し出さなければ表に千丁裏に千丁、この御田に水をくれない
と嘆き悲しんでおったのであります、しからばその姫を我に与えなば
蛇を切り姫の命を助け待つらん、こうおっしゃったのであります、姫
の命が助からばただいま大神擡げまつらん

そこでお考えになったのが、このお酒であります、酒を酒に造り替

え、七匹造り替えてこれをヤシオリの酒と申します(現在は京都の松
尾神社に奉られています)

問題は、蛇であります、頭がハツに尾がハツ、七尾七谷八尾八谷、
まなこはさながらお月さんごとく、上顎と下顎はお百姓さんがもつ、
テューミィの様に、バクリ、バクリ、ガバッ・・・話、話しやら

我は以前翁にて候、さるほどに出雲の国は火の川上の辺りに天下りに
候らえば、ゆうなぎ姫を中におき夫婦しく愁嘆つか奉り候、翁名を
尋ねれば父が名は手邦槌、母が名は足邦槌、中なる姫は櫛いなだ姫と
申すなり、この二柱の御神、八柱の御子もち候所年毎に姫をとられ、
残りの姫をとらえんとするを翁ふびんに思い、やがて石の船を造り
八潮百の酒を整えこれを蛇にすすめ、蛇起き上がって呑まんとするを
この戸塚の劍をもってハツの頭をやすやすと討ち果たして候、又一ツ
の尾に至りては、討つに討たれん、とるにとられん、それを運ねて一
首いわく、八雲立つ出雲八重垣つまごめに、八重垣つくるその八重垣
のいたずらに候らえば、この御劍こそ翁が手にやすやすと討はたして
候、劍と一派母ぎり初めの名は戸塚の劍と申すなり、蛇を切りの後は
蛇のあらまさと申すなり、又、このむら雲の御劍とは世々のひつぎ
の神宝、これ我がちょうは、三祖の仁義の内、宝剣これなり。
かようなるあやしき御劍に候えば、此れこそは大神の擡げまつらん

18 神 迎 ヒ

19 神 附

祈事も誠しあらば天壤の神の恵みぞなぞなかるらむ、後にも前にも神
の坐ますを、悪れ悪れて唯憤め哉。

取らば手にゆらゆらと八坂の眞玉神より神に集まってかしこし、
立つ時も居る時も唯仰ぎなばたてし山坂の道、御柱にしめ縄を掛け心
を祈りなばたと受け引かん神はあらじな……

南方 加久槌の大神、りょいのみたまを幸い給え
西方 金山彦の大神、りょいのみたまを幸い給え
北方 早秋津彦の大神、りょいのみたまを幸い給え
中央 埴山姫の大神、りょいのみたまを幸い給え

20 湯の 駈仙
21 裁 量 者
22 祝 詞
23 湯 棒
24 湯 行 事

岩 戸 神 楽

25 思兼 の命
26 四 方 鬼
27 鬼神 退治

かようなる怪しき御劍に候らえばこれこそは大神に擡げ奉らん

- 28 太玉の命^{とたまのみこと} ただ今岩戸の御前に太玉の命とおうせ[（] ろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり、太玉の命はただいま岩戸の御前にて御神楽を奏し賜えり
- 29 玉祖の命^{たまのそと} ただ今岩戸の御前に玉祖の命とおうせそうろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり、玉祖の命はただいま岩戸の御前にて御神楽を奏し賜えり
- 30 石凝留の命^{いしころど} 曇りなき神の心の御鏡に人の心を映し見るな—
 ただ今岩戸の御前に石凝留の命とおうせそうろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり、石凝留の命はただいま岩戸の御前にて御神楽を奏し賜えり
- 31 長白羽の命^{しるは} 魔が事はよそに払って白まゆみ千代のすえぞいとやのべまし
 ただ今岩戸の御前に長白羽の命とおうせそうろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり、長白羽の命はただいま岩戸の御前にて御神楽を奏し賜えり
^{しるは} 五十鈴その鈴を櫛の枝に結び付け我が住むかたえ吹き寄せよとのたもうて投げ下ろしたまえば伊勢の国やたらえのごうり山川にも吹き寄せたもうなり、御神の出でますときすめ巫女的身裾を裾がせたもうによって此れを身裾川と申すなり、いましこそ葉山茂山茂るとも神路の奥に道のあるものか、朝日さす夕日の西に影見えて我なす技をたれぞしるらん、我らも岩戸の御前にて弓正号の舞を舞うばやと存じ候
- 32 天鈿女の命^{あまのつみづな} ただ今岩戸の御前に天鈿女の命とおうせそうろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり、天鈿女の命はただいま岩戸の御前にて御神楽を奏し賜えり
- 33 手力雄の命^{てぢからのおとこ} ただ今岩戸の御前に手力雄の命とおうせそうろうはいかなる神名ましますや
^{おしいかな} 控えますは思兼の神なり手力雄の命は大力の御神にて今度この貴きよもの世界に光を与え賜え

3 お囃し

お囃しの種類

- A 舞始め ^{4拍子} ドンドン ^{2拍子} ドンチ ^{3拍子} ドンドン ス、ドンドンドンチ ^{4拍子} ドンチ ^{2拍子} ドンチ、の繰り返し
- B 駈仙 ^{4拍子} ドンドン ^{12拍子} ドンドン ^{2拍子} ドドドドド ^{3拍子} ドドドド ^{3拍子} ドン ^{3拍子} ス、ス、ス、ドドドド ^{2拍子} の繰り返し
- C 撒回 ^{3拍子} タララッタ タララッタタータッタ
- D 足拍子 ^{2拍子} ドンゴヒ..ヒ..ヒ..ー ^{2拍子} ドンゴヒ..ヒ..ヒ..
- E 舞下がり ^{2拍子} ドンガカッカラカ ^{2拍子} ドンガカッカラカッガカ ^{2拍子} カッカ
- F 太玉の舞 ^{2拍子} ドンカラカ ^{3拍子} カッカーカドンドン ^{3拍子} カッカカッカラカ ^{3拍子} カッカラカッカ
- G 鈿女の舞 ^{3拍子} ドンタッタッタ ^{3拍子} ドンタッタッタ ^{3拍子} ストドンドン ^{3拍子} ドンタッタッタ ^{3拍子} ストドンドン、の繰り返し
- H 舞納め ^{3拍子} ドンドンドドドド

- | | | | | | | |
|------------------|---|---|-----|---|---|----------------------|
| 1 大蔵深身殿 | A | H | | | | |
| 2 一番 神楽 | A | B | A | H | | |
| 3 手房 神楽 (通称笹神楽) | A | B | A | H | | |
| 4 花 神 楽 | A | H | 官儀A | C | B | A H |
| 5 二人 手房 | A | B | A | H | | |
| 6 駈仙 神楽 | A | B | A | H | | |
| 7 一人 鈿 | A | B | E | B | A | H |
| 8 地割 神楽 | B | H | | | | |
| 9 神宜 神楽 | B | H | | | | |
| 10 弓 正 号 | A | D | A | B | D | H |
| 11 乱 駈 仙 | A | B | A | H | | |
| 12 山 人 舞 (通称米神楽) | A | B | A | H | | |
| 13 三 人 舞 (通称餅神楽) | A | H | 官儀A | B | E | B A H |
| 14 綱 駈 仙 | A | B | A | H | | |
| 15 二 人 劔 | A | B | E | B | A | H |
| 16 四 人 劔 | A | B | E | B | A | H |
| 17 蛇 退 治 | A | H | 官儀 | A | H | 官儀 G H 官儀 B H 官儀 A H |
| 18 神 迎 | A | B | H | | | |

19	神	隨	A	H						
20	湯の	販仙	A	B	H					
21	裁	量者	A	H						
22	祝	詞	A	H						
23	湯	棒	A	H						
24	湯	行事	A	H						
岩戸神楽										
25	思兼	の命	A	H						
26	四	方鬼	B	H	B	H	B	H	B	H
27	鬼神	退治	B		H	官儀	A		H	
28	太玉	の命	A		H	官儀	A		H	
29	玉祖	の命	A		H	官儀	A	F	A	F
30	石凝留	の命	A		H	官儀	A	H		A
31	長白羽	の命	A		H	官儀	D	A	H	
32	天鈿女	の命	G		H	官儀	G	H		
33	手力雄	の命	B		H	官儀	B	H		

4 湯立神(釜の中の「御子」の役割